

未来共創チーム会議の議論のまとめ方等について①

「まとめ方・打ち出し方」に関して

①市民に伝えることを考えたい

- 審議会だけでなく、外向き（市民）にも通じるものにしていきたい
- 意識や関心が高い人にだけ届いても変わらない
- 広く伝えるにはインパクトが必要。市のサイトに載せているだけでは市民に届かない。
- 一般市民にも届くように、SDGsの17個のマークのようなアウトプットを考えてみていいのではないか

②アクションが伴っていることを考えたい

- アウトプットそのものが、動きの循環を生むようなものにしたい
- このメンバーだからこそでいうと、たとえば、テーマを持ったお茶会にしたり、そこに同じテーマで花を活けるということもできる。茶会のテーマにしたり、お花のテーマにしたりする形で、私たちが伝えたいことを皆さんにつかみ取ってもらえるような場を作ったりすることができるのではないか
- 委員それぞれが、活動のなかでできることをやっていくこともいい
- 一つ一つ言葉にしていくと、情報量が多すぎるので、それをぼやーっと包み込むようなアウトプットとして考えると、文化、アート、音楽などの形がよいのかもしれない

「未来の京都で大切にしたいこと」に関して

① つながりのデザイン

- ・ 京都はいろいろなものが因果関係によって産み出されていて、その中にそれぞれのコミュニティがあり、**結界**というところを通してそれぞれの**礼節**を持っていった上で、関係を構築し合って一緒に京都というものを作っている
- ・ 0. 1市民は、京都というまちにおいて、何かしらの**役割**を担っているということ
- ・ 大事なものは、自分と京都の**不可分性**。**自分がまちに貢献しているし、まちから自分にも何か返ってきている**ということをみんなが信じていれば、ハッピーなまち。その時に必要なものは**結界や役割**
- ・ 各々が自らの**役割**を理解して、他者に対して**礼節**を尽くして、互いに**協調、協力**を惜しみなくし合って、愛を持って京都の未来を構築していくということ

② 京都のレギュレーション、ルール（=らしさの再定義）

- ・ お茶の世界では、扇子は**結界**という意味を持つ。境界はボーダーラインである一方、結界は「**界を結ぶ**」と書くので、**自分の世界とあなたの世界を結ぶ**といった意味もある。ボーダーであり、ボーダーでない考え方が京都らしい
- ・ 結界の概念をみなが持っている、何でもかんでも交わるのではなく、一度**きちんと向き合う**ことができる。
- ・ 礼節は、他者を認知してこそできる

③ 人と歴史が紡いできた多層的な文化

- ・ 京都のように、**実践者**が多く、**理念と実践が伴った人**がまちの中にうろめいている状態は稀有である
- ・ 京都のまちが燃えつくしたとして、**人がいれば絶対に再興する**。文化財というのは文化の先に生まれてくるものであって、担い手がないということが一番怖い

④ ハブの創出、横断人材の創出

- ・ 京都で活動していることを突き詰めた先の**小さなリーダー**が、伝道者として大きく影響を与える存在になる
- ・ 自分のバイアスの中に閉じ込めるのではなく、新しいことを知っていく**学際**の機会があることによって、京都に専門家が生まれていき、専門家が伝導して小さな弟子たちが生まれ、リーダーとして台頭していく

⑤ 変えること、変えないことの両方を大事にしている

- ・ **新しいものを受け入れていく余地**を、上手にどう作っていけるのかを考え続けているのが京都
- ・ この時代の中で数百年先に残せる文化を作っていくことができるのだろうかと考えたときに、新しいものを私たちが認知して、私たち自身が作っていくことも大事だし、受け入れていくことの重要性について関係している